

Book Review



歯界展望別冊 わかる!できる! コンポジットレジン修復

宮崎真至 編著



Reviewer

北原信也 Nobuya Kitahara

(東京都・TEAM 東京 ノプレストラティブデンタルオフィス)

A4 判変, 148 頁
オールカラー
定価 (5,800 円+税)
医歯薬出版刊



宮崎真至先生は、日本の歯科界で最も忙しい上位3人に入るのはないかと常々思っている。そんな宮崎先生にまだこんな余力が残っていたのか…と思うほどの素晴らしい本が出来上がった。

20世紀の歯科革命は、インプラント、PFM（ポーセレンフェーズドメタル：メタルボンドクラウン）、そして接着といわれている。まさしくこの歯科革命の一つ「接着」が大きく寄与したのが、コンポジットレジン修復ではないだろうか。私たちはほぼ毎日このコンポジットレジンを使い修復治療を行っている。ゆえに、あまりに身近すぎる治療のため、わかっているようで、わかっていないことも多く、またできているようで、できていないのではないだろうか。そんなコンポジットレジン修復を見直す絶好のチャンスがこの本でかなえられる！私の最初の印象であった。

さて、本の中身をみるとChapter Iはコンポジットレジン修復では外すことができない、歯質接着のトレンド

について書かれている。昨年、アメリカの学会で多くの著名な先生方とお話する機会に恵まれたが、そのほとんどが「2015年のアメリカ歯科界のキーワードは“Adhesion”（接着）」と言っていたように、最も重要なステップといえる。特に各メーカーが次々と新製品を出してくるなかで、何を選択すべきかは悩むところであるが、各製品の特徴が見やすく表で示されており、たいへん比較しやすくなっている。Chapter IIでは、齲蝕除去に始まり、充填にいたるまでの各ステップの見直しとなる。若い臨床医はマストで読むべき章であるが、臨床歴の長い先生方も一度見直しの意味でも確認してほしい。Chapter IIIではより実践的な内容へと進む。Case 1のV級窩洞における修復のポイントをあげながら、これもステップバイステップでの解説が非常にわかりやすい。Case 2~5はIII級窩洞、IV級窩洞、破折歯、I級窩洞となるが、通常I級~V級に進みそうなところをあえてこの順番としたのは、おそらく日常臨床に遭遇する割合の多

さからか、また難易度順か、いずれにしても読み進みやすい。特にIV級の応用編としての破折歯の対応への流れは非常にわかりやすく、臨床に造詣が深い著者の細かい配慮に感心させられる。さらにはCase 6~9はII級窩洞からはじまるが、通常は処置の煩雑さを考えてインレーとしたいところを、より確実にまた簡便なテクニックで行う充填法が紹介されるとともに、最後の2症例はアドバンスとしての歯間離開からダイレクトラミネートベニアへの対応までが詳細に図説されている。このステップどおり行えば、誰でもができるのではないと思うほどである。Chapter IVは最終章となり、Q & Aでコンポジットレジン修復に関する疑問に答えているが、これも痒いところに手が届く内容といえる。

この1冊でコンポジットレジン修復のすべてが網羅されている。コンポジットレジンを知り尽くした著者だからこそその素晴らしい仕上がりで、バイブルとして診療室に置いておかなければならない1冊といえるだろう。